Japanese Association for Research in Family Nursing JARFN
日本家族看護学会

NEWS Letter
第19号
発行日　2023.12.28
広報委員会発行

日本家族看護学会第30回学術集会の報告と御礼
第30回学術集会長　山崎あけみ

第30回学術集会は、「Dyadic approach／もうひとつのいえづくり」のテーマのもと、2023年9月9～10日（第一会場のみライブ配信、オンデマンド配信9月15日～10月30日）大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンター・保健学科講義棟において開催致しました。会期中は、1189名の参加登録を頂きました。

特別講演1題、教育講演2題、2つのシンポジウムと、一般演題102題、交流集会19セッション、委員会企画9セッションと多数のプログラムを開催できました。中でも、30周年記念シンポジウムでは歴代理事長より本学会の30年の歴史をご講演頂き、さらに今後に向けて、荒木理事長がグランドデザイン構想についてお示しくださいました。国際的・学際的なオンデマンド講義6本も多くの皆さまに視聴頂けたと存じます。

参加者アンケート（回答者170名）では、「とてもよかった57.6%」「よかった40%」「家族看護の実践をどのように展開していけば良いのか、委員会企画・交流集会を通じて具体的にイメージできました」等、良い評価でした。一方、多くの会場で満席となり、すべてのご希望に沿うことができなかったことお詫び申し上げます。最後に、ご参加頂いた皆様、ご協力くださった理事・評議員・査読委員・企画運営委員・実行委員・ボランティア、そして協賛企業様に心から御礼申し上げます。

JARFN30 メイン会場の報告
愛知医科大学　山本弘江

今回、運営委員のひとりとしてメイン会場の運営を担当するとともに、シンポジウムⅠ「家族内の関係性をめぐる研究方法を探る」のシンポジストとして学術集会に参加しました。『Dyadic approach』という今回のメインテーマは、それまであまり聞きなれないものでしたが、シンポジウムを準備していく中で、家族内のDyadic dataを用いた研究から、1人に注目することではわからない、ずれや一致という視点から見えてくる課題をあらためて知る機会となりました。

また、会長講演、特別講演、教育講演では、家族に起こっている様々な事象について実践を交えてご講演いただき、多角的にみることでより深くその事柄を理解することができたり、もう一つのアプローチをおこなうことで家族の課題を解決できる糸口がみつけられることを学ぶ機会となりました。プログラムを通じて、看護のオリジナリティや、家族看護の可能性を感じることができた2日間でした。

日本家族看護学会 第30回学術集会に参加して
島根県立大学　永井真寿美

第30回学術集会が多くの方々のご参加のもと、盛会に開催されましたことお慶び申し上げます。口演発表では、研究者、実践家の皆様方が活発に意見交換されており、家族看護への関心の高さを実感いたしました。私どもは交流集会を企画・開催し、家族看護エンパワーメントモデルのご紹介と、グループワークを実施いたしました。多くの方々にご参加いただき、健康問題に直面し揺れ動いている家族員から家族全体へ視点を向け、日々の家族看護実践につながる、具体的な看護介入を検討いただけたように思います。揺れ動きながらも変化し、発達し続けている家族に伴走し、力の発揮を促すような家族看護実践について、研究者、実践家の皆様方と検討する機会をいただけましたことに感謝し、今後も家族看護実践について考え続けていきたいと思っております。

研究奨励賞

受賞論文

自分を伝えないAYA世代終末期患者の残された「今」を支えた看護
－語りあえない家族をゆさぶる
（2021年 26号2巻 掲載）

著者

土本千春、野尻清香、柄澤清美、柳原清子、土山和美、白藤恵里子、海道智美、宇都宮啓子
（敬称略）

家族看護グッドプラクティス賞創設

実践促進委員会　委員長　藤井淳子
将来構想委員会　委員長　井上玲子

実践促進委員会と将来構想委員会は、現場で言語化されていない優れた家族看護「実践」を発掘することを目的に、今年度、家族看護グッドプラクティス賞を創設しました。応募数は13件にもおよび、緩和ケアやグリーフケア、コロナ禍、新しい医療、在宅支援、救命センターなどのキーワードを軸にした貢献度の高い報告や、家族と協働した新たな取り組み報告もありました。また、家族看護の教育方法の検討や、家族看護理論の活用の実際等、実践の可能性を広げる内容でした。

どれも甲乙つけがたい内容でしたが、同点で2つの取り組みが受賞となりました。第30回学術集会当日、受賞者には5万円の賞金と賞状が授与され、受賞者からは「これからの活動の大きな励みになります」と笑顔の写真を頂きました。

次年度も家族看護グッドプラクティス賞は続きます。現場で何気なく行っている家族看護をぜひ言葉にしてください。たくさんのご応募をお待ちしています。

受賞者の皆さん

写真左　「子どもを亡くした家族のグリーフ支援」
（藤田 紋佳、濵田裕子、森口晴美、相星 香）

写真右　「コーエン症候群の患者・家族と研究者のコラボレーションによる家族会支援の実際」
（倉石 佳織、北村 千章）

日本家族看護学会 第31回学術集会のご案内

テーマ：
いま、語り合おう！臨床家の実践知、研究者の探究知、そして家族の体験知
～ダイナミックな融合をめざして～

学術集会長：
井上玲子（東海大学大学院 教授）

会期：2024年9月14日（土）～15日（日）
会場：鎌倉芸術館（神奈川県鎌倉市）

演題募集期間：
2024年2月1日（木）～4月26日（金）
事前登録期間：
2024年2月1日（木）～7月29日（月）

詳しくは学会ホームページをご覧ください
http://jarfn31.umin.jp/index.html

＜編集後記＞　NEWS Letter第19号をお読みいただき、ありがとうございました。御寄稿下さいました先生方には、深く感謝申し上げます。3年にわたるパンデミックから、ようやく日常が戻りつつあります。医療機関などにも面会にこられる家族の姿と笑顔が戻ってきたように思います。一方で、今年も新たな災害や紛争等が世界各地で起こり、課題が次々と生じています。来る年には、多くの方々が平安に過ごせることを願ってやみません。

担当委員：小西美樹　委員長：山崎あけみ